

会津若松消防署 予防係の方から避難訓練コンサートの最後に講評・防災講話をいただきました。

冒頭部分では、今回の避難訓練コンサートについてご指摘をいただきました。

- ①参加者数を増やし大規模な避難訓練コンサートも行うべきである。
- ②地震想定だけでなく火災想定 of 避難訓練コンサートも行うべきである。
- ③非常放送の音量が低かった。

との、貴重なご指摘をいただきました。

- ◎さまざまな条件が考えられることを考慮に入れ、お客様に安心してご利用していただけるよう、より一層の対応能力向上に努めて参ります。

地震時の行動に関する防災講話をいただきました。

●地震のメカニズム、P波とS波について

地震は、海底にあるプレートと呼ばれる岩盤の歪みにより発生するものと、活断層が動いて発生するものに類別されるということでした。また、最初の「カタカタ」という小さな揺れをP波、その後の「ぐらぐら」という大きな揺れをS波と呼ぶとのことでした。

とある避難訓練後にアンケートを実施したところ、

●劇場等で災害が発生した場合に訓練同様の対応が取れるか？

→大丈夫（11%）

→できない・わからない（89%）

★9割近くの方が災害が発生した場合の対応方法に不安を抱いている結果が得られました。

●劇場等で地震があった場合最も不安に思うことを問うたところ、

1. 係員の避難誘導方法
2. 停電による暗闇状態
3. 天井からの落下物
4. 大人数の混乱状態

特に「大人数の混乱状態」に関しては、パニック防止のため、慌てずに館内放送や係員の誘導に従うことが必要とのことでした。また、災害時要援護者(高齢者、障害者、乳幼児、日本語が不自由な外国人等)の避難を優先すべきとのことでした。

●住宅用火災警報器について

寝室への取付が義務化されているとのことでした。正常動作するかどうか確認を行うことが不可欠で、火災警報器を「つけて満足」するのではなく、「確かめて満足」して欲しいとのことでした。